

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 18日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2875001501 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 恕和会 | | |
| 事業所名 | カルム箕谷 | | |
| 所在地 | 〒651-1243 神戸市北区山田町下谷上字かんじゃ7番3号 (電話) 078-586-0753 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西 | | |
| 所在地 | 兵庫県川西市中央町8-8-104 | | |
| 訪問調査日 | 2008年12月3日 | 評価確定日 | 2008年12月18日 |

【情報提供票より】 2008年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17年 2月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 21 人 | 常勤 11人, 非常勤 10人, 常勤換算 | 18 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-------|---|-------|
| 建物構造 | S 造り | | |
| | 2 階建て | 1 | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------|----------------|-------|-------|
| 家賃(平均月額) | 90,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(300,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有(3年) | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 350 円 |
| | 夕食 | 350 円 | おやつ | 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(11月 22日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 5名 | | |
| 要介護3 | 3名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 84.9 歳 | 最低 | 72 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 松田病院 西畑歯科医院 |
|---------|-------------|

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・新神戸からトンネルを抜けた山あいにあるホームである。街道沿いではあるが、敷地は広く、ホーム自体は落ち着いたたたずまいである。1階ベランダから広い花壇や畑へ出られるように遊歩路が整備され、植え付けから収穫まで利用者の楽しみとなっている。法人理事長は永年地域医療に携わり地域に貢献してきたが、法人主催の恒例行事には今年も健康講話を行い、介護予防への関心を高めた。また、今年度は認知症対応型通所介護や認知症対応型短期入所生活介護の事業を開始したので、ホームとしてはさらに多機能性を活かした支援が可能となった。

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) |
| | ・2008年度重点テーマ推進計画を作成し、職員も担当課題を分担し、パンフレットにも地域密着を明示されたが、ホームの持つ認知症に関する知識技術を地域に広める講師派遣などは、今後の取組みである。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) |
| | ・今回の自己評価は日々のケース記録を参考にし、職員の思いや考え方を聞き取り事務長や所長がまとめたので、職員としては、日々の業務を振り返り介護への意識が高まった。今後は、職員が分担して直接評価を作成することも検討してほしい。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) |
| | ・2ヶ月に1度の運営推進会議には、利用者、家族、自治会長、民生委員、福祉関係者などが出席している。入所者の近況報告として写真をプロジェクターで映写しながら報告している。その他事業所概況報告、介護計画作成経過、新規事業(デイサービス、ショートステイ)などを議題とし、検討内容は運営に活かすようにしている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) |
| | ・家族の来訪は多いので、その機会に家族の意見や要望を聞くようにしている。運営推進委員会には家族代表が2名参加しているが、気楽に本音の意見を出してもらわれるように努めている。相談窓口がわからないという意見にこたえて、行事予定表に明記して各家族に郵送した。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) |
| | ・地域行事などには自治会賛助会員として参加している。また、法人主催の恒例行事には今年も多数の住民が参加し、利用者にとっては楽しい交流となった。ホーム便りを自治会に配布しているので、地域のホームへの理解が広がっている。 |

2. 第三者評価結果票

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|---------------------|--|
| .理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ・利用者が地域社会の一員として、安心して明るく自分らしく過ごせるような援助を理念としている。そのために、できる限り地域との交流を心掛けている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ・全職員が理念を常に意識できるように、フロアや毎日使用するパソコンの前に貼り出している。さらに、月1回の勉強会には毎回テーマとし、理念に立ち返って日々の介護を確認し合っている。ホーム便りにも理念を掲載している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | ・賛助会員として自治会行事などに参加している。また、法人主催の恒例行事「なごみ寄席」には多数の住民参加があり、ホームの利用者も一緒に歌い盛り上がった。一方、利用者が散歩中に住民と世間話をし、地域住民として溶け込んでいる。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | ・自己評価票は事務長・所長などがまとめたが、職員も思いや考え方を訊かれたので、業務に関わる意識が高まった。第三者評価の意義についても毎月の勉強会で話題にし、サービス向上につなげていきたいと思っている。 | | ・自己評価に主体的に取り組むことは介護への振り返りと向上心、職員間の連帯にもつながる。評価過程への職員のより具体的な関わりを期待したい。 |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------|----|--|---|---------------------|---|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>・運営推進会議では、利用者の近況をプロジェクトで紹介し好評だった。ホームの事業や外部評価についても報告し、検討された内容を運営に反映させている。</p> | | <p>・運営推進会議には、利用者とともに家族代表2名が出席しているので、率直な意見を引き出しサービス向上のために活かしてほしい。</p> |
| 6 | 9 | <p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>・新事業（認知症対応型通所介護、認知症対応型短期入所生活介護）の市への申請相談では、予想以上に意思疎通がなされた。また市の監査指導にも積極的に取り組み、連携の強化につなげた。</p> | | |
| ・新事業(| | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>・家族の来訪は多く、その都度利用者の状態を報告している。ホーム便りには利用者の暮らしぶりの写真を載せ家族に送っている。また個人アルバムを作成し見てもらっている。年2回の家族会には、ホームの生活をプロジェクトで映写し報告している。</p> | | <p>・職員の異動に関しては家族に報告していないが、家族の介護に対する不安につながるないように、報告する方法を検討されてはどうか。</p> |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>・相談窓口の担当者が分からないとの意見が出たので、行事予定表の中に明記した。家族会や運営推進会議での意見などを参考にし運営に反映している。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>・主になって勤務していた職員が離職した際は、利用者が不安を感じないように十分配慮した。利用者としては、ホームを自宅として穏やかな生活ができていたので影響は少なかった。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|---------------------|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・実践者研修などの外部研修には、常勤職員が順に受講できるようなシフトを組んでいる。今後は非常勤職員にも受講の機会をつくりたいと考えている。内部研修は月1回事業所の合同勉強会を実施している。介護の現場では、リーダーが中心となり、習熟度に応じて基本技術を指導している。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・近隣のグループホームの運営推進会議には、介護計画担当の職員が認知症の知見者として出席しているが、双方向の関係とまでは至っていない。また、施設連絡会にはホームから3人が出席し、他のグループホームと意見交換を行った。 | | ・地域グループホーム間の交流は恒常化されていないので、サービスのさらなる質の向上のために、地域グループホームネットワークの構築を期待したい。 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ・利用者が安心して納得して利用できるように、申請前に見学してホームの雰囲気を感じてもらっている。関係者からの紹介の場合は自宅訪問することもある。入所当初は帰宅願望がありがちだが、家族の協力のもと、できるだけ利用者の気持ちを受け止めつつホームに馴染んでもらうよう努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | ・畑の野菜の植え方や収穫野菜の調理の手順など、生活のなかで利用者から教わることが多い。食事の一連の作業は、利用者の昔話を聞きながら一緒に行っている。 | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|---------------------|--|
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>・日々の会話の中でふともらされる言葉から、利用者の思いや好みを把握するように心掛けている。また、重度化し意思を表明できなくなった人については、家族に相談した上で、表情などの変化をくみ取り対応している。</p> | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>・利用者の1日の状態を勤務者が管理システム「ケース記録」に入力し、情報を職員間で共有している。介護計画は日々の情報をもとに、関係者でカンファレンスを行い、利用者や家族の意向も尊重して作成している。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>・介護計画作成者の離職により、定期的見直しとはなっていなかったが、今回体制が整ったので、3ヶ月ごとの見直しを目指していく。なお、従来から、体調の変化があった場合はカンファレンスを行い、家族とも話し合い随時見直しを行ってきた。</p> | | <p>・介護計画作成者やリーダー制などの体制が整ったので、介護計画の期間に応じた見直しによって、さらなるサービスの質の向上に期待したい。</p> |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>・所長が看護師であり、同施設内に訪問看護を併設していることから、24時間体制の緊急時対応により安心できる環境である。併設のデイサービスへの参加も自由に行っている。</p> | | <p>・ホームがこれまで培ってきた知識と技術を、地域の在宅高齢者や家族等に還元し、地域の拠点となる活動を期待したい。</p> |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|----|--|---|---------------------|-----------------------------------|
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>・利用者や家族のかかりつけ医に受診の場合、遠方に限り家族にお願いしている。毎月協力病院の定期往診の他、必要に応じて職員が受診に同行している。</p> | | |
| 19 | 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>・入居時にホームの終末期の対応や方針について説明し、家族会で「終末ケア同意書」を取り交わし個別に確認している。所長を中心に全職員でケア態勢を作っている。</p> | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>・入職時のオリエンテーションで個人情報保護について周知徹底している。申し送り、ケース記録など、日常業務の中で利用者個々の接し方について職員間で確認しあっている。</p> | | |
| 21 | 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>・利用者個々の希望に添った外出は、併設事業所職員の協力を得たり、職員が休日にボランティアで同行することもある。日常的な散歩は日々対応している。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>・買い物から下ごしらえ、料理、配膳、後片付けまで一連の作業は利用者と一緒にやっている。家庭料理を前提とし、個々の好みも配慮するようにしている。</p> | | |
| 23 | 57 | <p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p> | <p>・日中の個々の希望時間に合わせて、入浴してもらっている。毎日入浴する人もいるが、週3日を基本としている。入浴が楽しみとなるよう柚子湯、菖蒲湯などの工夫をしている。希望により併設施設の特浴も利用できる。</p> | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | <p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p> | <p>・調理や食事の準備、後片付け、居室の掃除などこれまでやってきたことを中心に関わってもらおう働きかけている。いっしょにやることもあるが、教えてもらいながら助けてもらっている。毎朝の体操時に、利用者の歌でリズムをとっている。</p> | | |
| 25 | 61 | <p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p> | <p>・近隣の店への買い物や散歩など日課としている人もいる。ホーム前庭にある畑の手入れや、テラスでくつろぐなど外気に触れるよう支援している。</p> | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | <p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> | <p>・玄関は、夜間の防犯のみ施錠している。</p> | | |

| 第三者 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|---|---------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | <p>・年2回、防災マニュアルに沿った消防訓練を実施している。地域との協力体制は今後の検討課題だが、職員は出勤時、積極的に挨拶することを心がけている。</p> | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>・利用者の好みに配慮し、季節感のあるメニューを心がけている。水分量は一日の適量を目安に好みの飲料を勧めている。体調不良等の場合は、医師と相談のうえ点滴を行っている。</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>・台所を中心に、リビング、居室が見渡せるつくりになっており、台所からは、テラスに続く職員手作りの前庭が広がっている。夜間は電飾で利用者の目を楽しませている。廊下には、居心地良くソファが配置されている。</p> | | |
| 30 | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>・家族の来訪も多く、一緒にくつろげるよう身近な日用品が置かれている。写真や趣味の飾り物、花などが居心地よく配置され、その人の人となりがかがわれる。</p> | | |

 は、重点項目。